

リストブラウザ

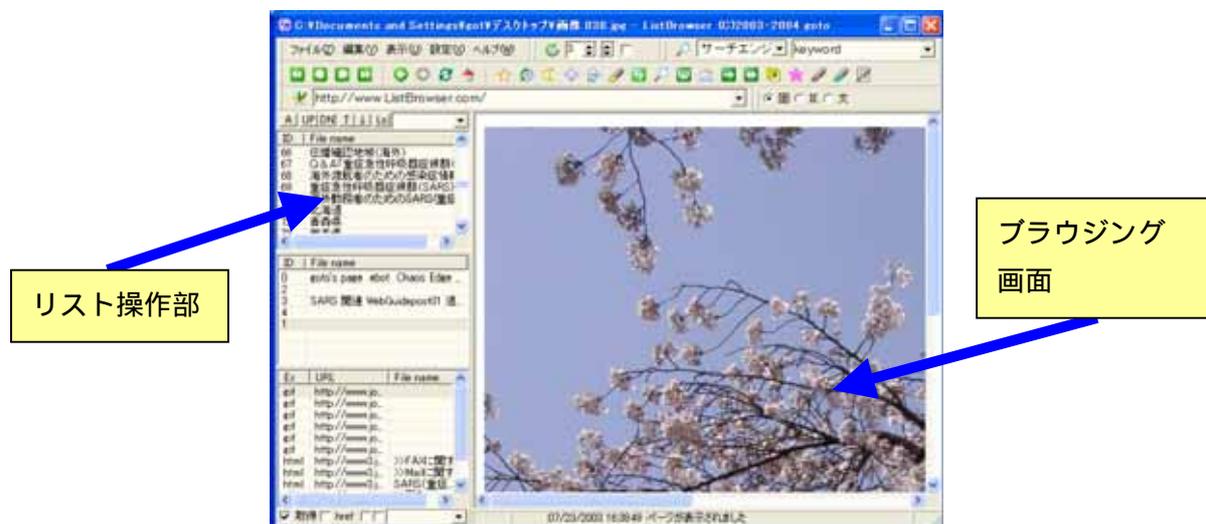
開発者：後藤典雄

本開発ソフトは、通常のブラウザ、タブブラウザに続く、第三のブラウザです。

開発の目的は、WEB ページの速読を可能とする、真の意味での“ブラウザ”ソフトを実現することです。

この目的のために大量のWEB ページを素早く簡単に閲覧する方法(インターフェイス)を考案し、その方法に基づいてリストブラウザ 1.0 を開発致しました。

本ソフトを導入することにより、誰もが簡単にWEB の生産性を向上させることが可能で、その波及効果は、WEB を利用する一個人から会社、公共部門まで及ぶものと思われます。



ListBrowser1.0

また、その操作法はいたって単純なもので次のようになっております。

- 1．先ず、リストが表示されている部分にマウスポインタを移動します。
- 2．次にマウスホイールを回します。手前に回せば進み、逆回転なら戻ります。
- 3．ページが表示されます。

この操作方法により、紙本なみの操作性となって、速読も出来るようになりました。

最後に、本ソフトを利用することによって生産性が向上する例を幾つか挙げて起きます。

例 1:企業体においては、情報の取捨選択の正確さがその命運を握っているといって過言ではありません。良い取引先、低価格な物品、最新の国際情勢.....これらはインターネット上に存在しますが、散在しているために、真に有用な情報を収集するためには実際に人が多くのページを見て判断する必要があります。

ところが、現在一般的なブラウザを利用した場合には、その操作性由来のボトルネックによって情報収集には多くの人的資源（または時間）が必要でした。

しかし、リストブラウザを利用すれば、このボトルネックは解消され、収集時間(コスト)を大幅に低減でき、インターネットの情報をより有効に活用することが可能です。

例 2:オークション、ショッピングモールや販売サイト等の WEB 上のカタログは非常に見難いものであります。

しかし、リストブラウザを利用すれば、紙の本並の操作性でカタログを閲覧可能で、商品の販売促進に役立つと考えられます。

また、購入者側から見ても多くの商品を閲覧できるといったメリットがあります。

例 3: 株であろうと、オプションのようなデリバティブであろうと、投資は情報が命です。

例えば、ソフトで株の予想をしても、それは判断材料の 1 つにすぎず、最終的に判断するのは人間です。

それならば、1 つの予想よりも、多くの判断材料ということになります。

そして、社会の鏡ともいべきインターネットには玉石混淆の情報が溢れ、だからこそ、投資の情報源として欠かせないものになっています。このブラウザを利用すれば、判断材料となる情報を効率よく収集することが可能です。

例 4:これは生産性の向上とは多少異なりますが、バナーやテキスト等ではない、今までにない新しいタイプの広告が可能ではないかと考えております。

その他、利用法次第で様々な分野の生産性向上が図れると考えられます。